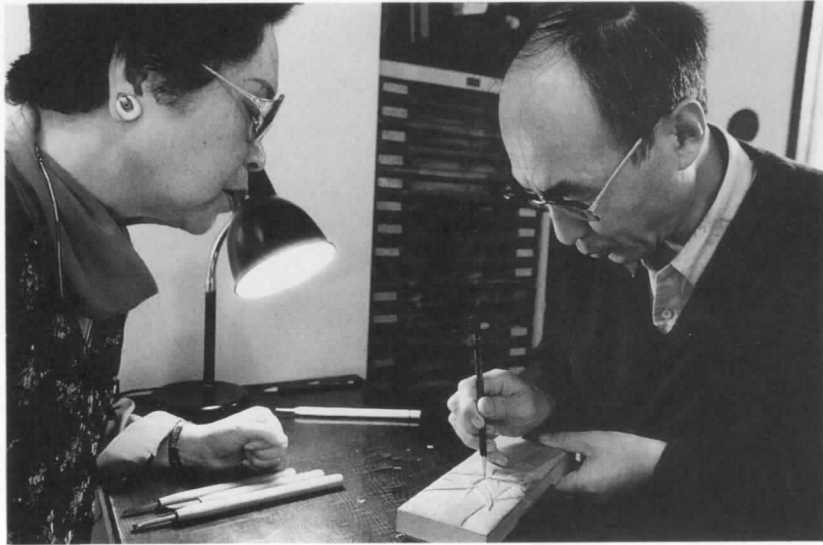


鎌倉彫

久留美会奴田教室

ひとつ彫りごとに面に表情が生まれる魅力。



指導はひとりひとりの作品に合わせてマンツーマンで。刀の使い方、線の生かし方をしっかりと見て学ぶ。

鎌倉らしい工芸品といえば、何を思い
てもまずは鎌倉彫だ。1979年には伝
統的工芸品の指定も受けている。

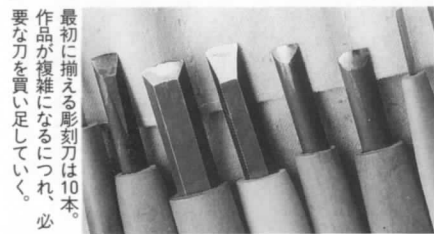
そのルーツは、鎌倉時代にまでさかの
ぼることができる。禅宗の伝来とともに
中国からもたらされた美術工芸品から、
漆を何回も塗り重ねたものに文様を彫る
堆朱や堆黒といった技法の影響を受け、
仏師や宮大工が手がけたのが鎌倉彫の始
まりだという。けれど美術品や茶道具と
しての歴史が長く、生活に用いられるよ
うになったのは明治以降のこと。

三橋鎌山と後藤斎宮というふたりの明
治期の作家によって、現在にまで続く鎌
倉彫のふたつの作風が確立された。くっ
きりと彫刻刀の目を立たせコントラスト
をつけるのが三橋式、面のつながりをい
かして柔らかさを出すのが後藤式といわ
れている。

伝統鎌倉彫事業協同組合の理事長も務
める伝統工芸師、奴田不二夫さんの教室
は、地元の人たちが愛着を込めて「裏駅
と呼ぶ鎌倉駅西口を出て、徒歩2分の便
利な場所にある。祖父は、三橋の2代目
にあたる鎌岳について学んだ三橋系だ。

はじめは彫刻刀に慣れないうちから。

鎌倉彫には大きく分けると、木地作り、
彫り、塗りの3つの工程があるが、どの
教室でも、彫りの部分のみを教えるのが
一般的だ。塗りはかなり熟達した技術を



最初に揃える彫刻刀は10本。作品が複雑になるにつれ、必要な刀を買い足していく。

初心者は最初は丸盆からスタート。上級者になると重箱や小引き出しも。

必要とする漆を使うため、専門家にまか
せるのである。

あらかじめ盆や箱の形に作られた木地
は、北海道産の桂材が使われることが多
い。軟らかく彫りやすいわりに、乾燥によ
る収縮が少なく、漆もよくなじむからだ。

1枚目は、初心者にも彫りやすい丸形
の盆に紅葉を3枚。作品を作るといっ
たりは、彫刻刀に慣れることが大切だ。ひ
とひとりとの進み具合に合わせて個別の
指導をしてくれるので、午前10時30分
から午後4時までの間で、好きな時間に
来て好きなだけ作業ができる。教室だけ
集中して彫る人、家でコツコツと彫り進
める人とさまざまで、個人差はあるがほ
ぼ3か月で最初の作品が出来上がる。

さらに基本的な彫刻刀の使い方を覚え
るために、2枚目は梅、3枚目は椿を彫
る。ここまででほぼ1年。そうしていよ

いよ4つ目の作品からは、先生と相談し
ながら好きな作品に取り組む。

「図案の複雑な箱(右の写真手前)や小
引き出し(同奥)のような大きなものを
いきなり彫るのは無理ですが、3年ぐら
い続けられれば、かなりのところまでやれる
ようになりませうよ」と奴田さんはいう。
木くずが粉にならず、スリットと削り取れ
るような刀使いができるようになればし
めたものだ。

完成間近な作品をいとおしそうに見つ
めながら、会員のひとりがつぶやく。

「だんだんと表情が出てくるのが楽しい
のね。そうして塗りを終えて手元に戻っ
てくると、これが自分が彫ったものかと思
うくらい見栄えがするから不思議です
よ。でも、やればやるほど難しくなるわ
ね」。その言葉が、鎌倉彫の魅力と奥深さ
を語っていた。



1クラスは平均10人前後。テーブル席と続きの和室がある。

くろみかいぬだきょうしつ ● 鎌倉市御成町11-
29 新郷通4F ☎0467・22・5550 (奴田宅) 稽
古日/月2回(日曜日を除く毎日、都合のいい
曜日を選ぶ)、10時30分~16時 入会金/5000
円 月謝/5000円 教材費/彫刻刀10本セッ
ト2万2000円、生地代2200円、漆仕上げ代別途